

第7章『従業員へM&Aの事をどう伝えたら良いのか？』

～ある日の従業員開示の風景より～

大阪府事業承継・引継ぎ支援センター
統括責任者 兼田 亜貴



夕暮れ時、食堂を兼ねた集会スペースにて。横一列に並ばれた従業員さん達の顔は、社長から何が発表されるのか不安そうな顔で一杯でした。「今日集まって頂いたのは、うちの会社をA社さんに引継いだこと、そして、私の後任としてB社長に就任してもらう事になったことを伝えるためです」一睡もできなかつたという「元」社長の声はわずかに震えています。反応は様々。「え？嘘でしょ？」と目を丸くする方、安堵の表情を浮かべる方、歯を食いしばって涙をこらえる方など。

M&Aの最終契約締結を何とか果たし、通常、次に待ち受けているのが従業員開示です。秘密保持などの観点から基本的に事前に開示は行いません。M&Aをしたこと、その経緯、新社長の紹介、今後の展望などを全従業員に公表します。

「社長が変わっても、皆様の働く環境や条件は変わりませんので安心くださいね」と新社長のBさん。元社長も「しばらくは引継ぎで顧問として残ります。今後は、社長でなく〇〇さんと呼んでください」と笑顔で伝えると、従業員さんの表情が一気に柔らかくなりました。

当センターのお客様で、望まれる方は、M&Aの従業員開示について立ち合いをしています。国の事業で、相手探しを進めた事をお伝えすると、安心してくださるからです。当センターからは「M&Aは結婚のようなめでたいお話しです。社長は、何年も悩まれて、この会社の発展のために、最良のお相手を選ばれました。」などとお伝えしています。

従業員のみなさんは、会社の事業承継についてどこか心中気にかけているものです。ですので、皆様の不安を払しょくするようなメッセージをしっかりと準備して臨みましょう！当センターもお手伝いします。

